

阿南市教育・保育施設整備実施計画

令和7年3月

阿 南 市

目次

第1章 施設整備実施計画の策定にあたって	1
1 背景と目的	
2 施設整備実施計画の位置づけ	
第2章 就学前児童を取り巻く現状と課題	2
1 阿南市の人口と就学前児童の人口推移	
2 阿南市人口ビジョンに基づいた入所児童数（推計）	
3 教育・保育施設別の利用者数の推移	
4 保育士の配置基準に対する児童の充足状況	
5 教育・保育施設の利用者居住地域	
第3章 施設整備実施計画の方向性と内容	9
1 計画の方向性	
2 計画期間	
3 エリア選定の考え方	
4 エリア選定	
5 エリア別入所児童数（推計）	
6 年次計画	
7 施設整備実施優先エリア	
第4章 エリア別整備実施計画	16
1 阿南中校区エリア	
2 阿南一中・加茂谷中校区エリア	
3 阿南二中・福井中・新野中校区エリア	
4 那賀川中校区エリア	
5 羽ノ浦中校区エリア	
資料 中学校区エリア別 施設配置図	21
施設整備実施計画エリア全体図	

第1章 施設整備実施計画の策定にあたって

1 背景と目的

我が国では、急速な少子化が進むなか、核家族化や地域のつながりの希薄化により、子育てに不安や孤立感を覚える家庭が増える傾向にあります。また、共働き家庭の増加や就労環境の多様化などによる子どもと子育て家庭を取り巻く環境の変化が著しくなっており、幼稚園や保育所が果たす役割はさらに重要となっています。

本市では、これらの変化に対応すべく、幼稚園・保育所に通うそれぞれの子どもにあった教育・保育を推進してきました。

一方で、本市の公立幼稚園・保育所では、大きく二つの課題を抱えています。第一に、施設の老朽化です。公立幼稚園・保育所の多くは老朽化が進み、今後、大規模災害が想定されている地域である本市においては、子どもの安全・安心の確保に向けた検討が必要となっています。第二に、急速に進行している少子化です。公立幼稚園・保育所に通う子どもは減少傾向にあり、施設によっては、適正なクラス人数を確保することが難しく、この状況は今後も加速すると考えられます。このような状況を踏まえ、本市では、令和5年3月に「阿南市教育・保育施設整備基本方針」を策定し、将来の就学前教育・保育を進める上で、現状と課題を明確にし、施設整備にあたっての基本的な考え方を明らかにしました。

本施設整備実施計画は、この基本方針を十分に踏まえつつ、本市の未来を担う子どもたちへの充実した教育・保育の実現に資するとともに、より良い就学前教育・保育環境の下で、お互いの人権と多様性が尊重されるよう、その中核を担う認定こども園の整備に向けた方策として、施設数や設置エリア、スケジュール等をまとめ、具現化を図ることを目的とし、この度、新たに策定することとしました。

2 施設整備実施計画の位置づけ

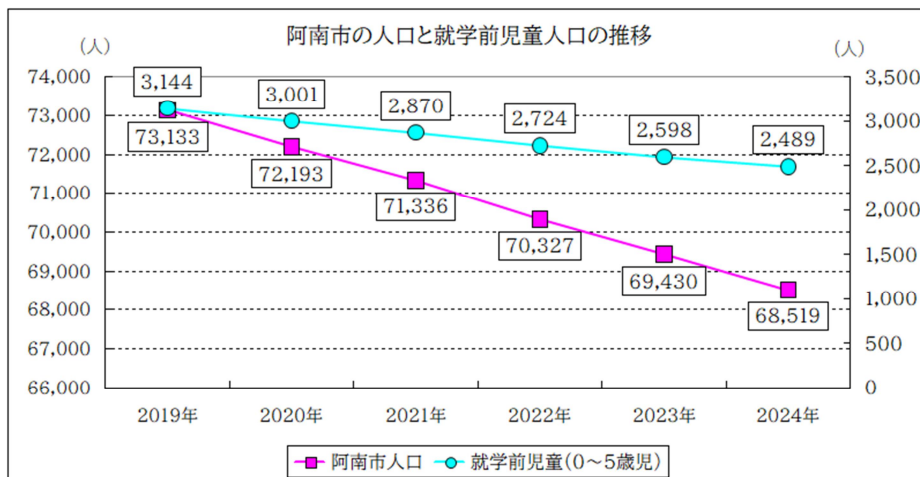
本計画は、本市の上位計画である「阿南市総合計画2021▶2028」における幼稚園と保育所の認定こども園への移行等による教育・保育の向上や民間活力の導入などの行政経営の視点に立った改革の推進、また、令和7年3月策定の「第3期阿南市子ども・子育て支援事業計画」における認定こども園化年次計画の推進、令和3年2月策定の「阿南市建物系公共施設個別施設計画」及び令和5年3月策定の「阿南市教育・保育施設整備基本方針」との整合性を十分に勘案しながら、本市の将来における推計人口を見据え策定するものです。

第2章 就学前児童を取り巻く現状と課題

1 阿南市の人口と就学前児童の人口推移

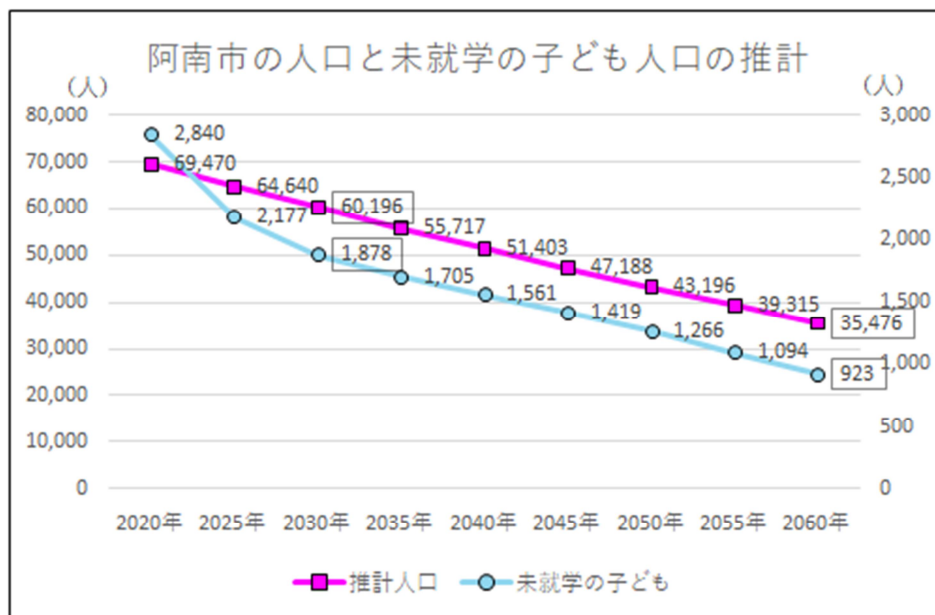
(1) 直近6年間の推移（各年3月31日時点の住民基本台帳による）

本市の令和6年3月31日時点の総人口は、68,519人で、平成31年（2019年）以降、減少しております。就学前児童人口（0～5歳児）をみると、令和6年3月31日時点では、2,489人と平成31年と比較して655人減少しております。



(2) 将来人口推計（社人研「国立社会保障・人口問題研究所」推計準拠）に基づく将来の見通し

「阿南市人口ビジョン（2024年策定版）」により公表された2060年の本市の推計人口は、35,476人まで減少すると推計されます。未就学の子ども（0～5歳）は、2030年には、2,000人を切り、2060年には1,000人未満まで減少するものと見込まれています。



2 阿南市人口ビジョンに基づいた入所児童数（推計）

(1) 地区ごとの入所児童数（推計）

現在、本市では、公立の教育・保育施設として、幼稚園5施設、保育所13施設及び認定こども園6施設の計24施設で就学前教育・保育を行っています。また、私立の教育・保育施設としては、幼稚園2施設、保育所6施設、認定こども園2施設及び小規模保育事業所3施設で就学前教育・保育を行っております。

令和5年3月策定の「阿南市教育・保育施設整備基本方針」においては、当時の人口ビジョンに基づき、公立及び私立の教育・保育施設で地区ごとの入所児童数を推計しておりましたが、この度、「阿南市人口ビジョン（2024年策定版）」が公表されましたので、当該人口ビジョンによる各地区における人口推移（0歳から9歳推計）データを基に、40年後（2060年）までの就学前（0歳から5歳）の各地区における入所児童数（推計）を更新しました。

また、山口保育所及び椿保育所は、令和6年4月から休園となっておりますが、それぞれの地区における出生数を反映するため、山口保育所の入所児童数は、桑野保育所へ、椿保育所は、福井保育所へ加算しました。

○阿南市人口ビジョン（2024年策定版）各地区における0歳から9歳の人口推移を抽出

（人）

	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
富岡	538	499	448	394	346	298	251
宝田	214	212	218	228	231	222	216
中野島	209	177	157	141	128	113	92
長生	99	83	72	64	55	44	35
大野	75	60	57	51	39	31	25
加茂谷	50	37	30	24	21	18	14
桑野	139	114	95	78	73	64	51
見能林	457	415	386	346	297	248	200
新野	95	73	53	42	33	25	20
福井	55	40	30	24	18	12	8
椿（伊島）	23	16	13	11	9	8	6
橘	63	51	39	30	22	15	11
那賀川	501	455	405	354	304	257	214
羽ノ浦	772	722	701	678	640	582	503
合計	3,290	2,954	2,704	2,465	2,216	1,937	1,646

入所児童数（推計）※は、各地区における0歳から9歳の人口推移から推計しました。

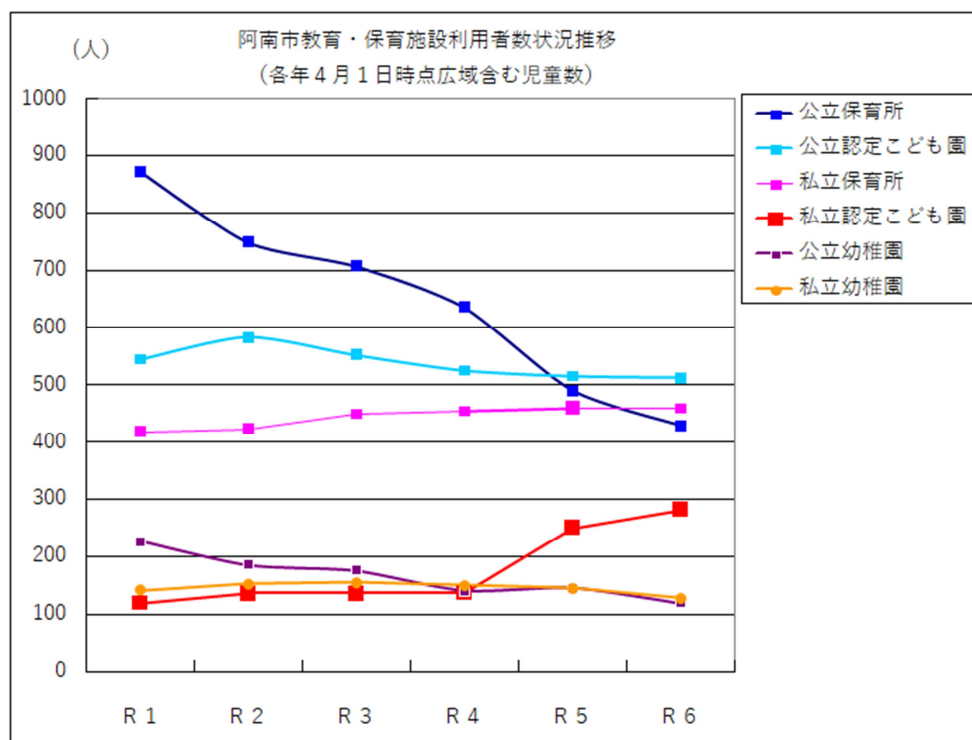
地区名	施設名 R6.4.1	定員	経過年数(年)	入所児童数(人)			入所児童数(推計)※(人)			
				令和4年4月	令和5年4月	令和6年4月	2030年	2040年	2050年	2060年
富岡	富岡保育所	106	54	74	89	80	69	57	44	32
	富岡幼稚園	65	51	35	45	31	27	22	17	12
	寿保育所	20	50	4	7	7	6	5	4	3
	(私立4施設)	264		210	209	184	158	131	101	74
		455		323	350	302	260	215	166	121
宝田	宝田こどもセンター	100	43	73	75	74	66	67	71	67
	(私立2施設)	129		131	122	125	112	113	120	112
		229		204	197	199	178	180	191	179
中野島	明星保育所	84	48	71	56	59	47	35	29	21
	中野島保育所	40	44	20	21	24	19	14	12	8
	横見保育所	40	51	13	14	12	10	7	6	4
	横見幼稚園	20	45	19	10	8	6	5	4	3
		184		123	101	103	82	61	51	36
長生	本庄保育所	20	50	17	17	10	8	6	4	3
	長生保育所	45	45	28	24	24	19	14	10	7
		65		45	41	34	27	20	14	10
大野	大野保育所	45	42	33	35	24	17	9	9	6
	大野幼稚園	50	49	20	28	32	22	17	12	7
		95		53	63	56	39	26	21	13
加茂谷	加茂谷幼稚園	20	44	14	14	11	8	5	4	2
		20		14	14	11	8	5	4	2
桑野	桑野保育所	70	44	59	50	46	39	27	20	14
	山口保育所 (R6.4.1休所)	40	34	9	5	—	0	0	0	0
		110		68	55	46	39	27	20	14
見能林	見能方保育所	45	36	32	30	28	23	19	15	10
	見能林幼稚園	50	34	52	49	38	32	27	21	14
	津乃峰保育所	50	36	30	26	25	20	17	13	9
	(私立2施設)	150		141	147	137	111	94	72	48
		295		255	252	228	186	157	121	81
新野	新野こどもセンター	79	23	51	42	47	47	26	16	10
		79		51	42	47	47	26	16	10
福井	福井保育所	33	33	20	16	15	15	9	5	3
		33		20	16	15	15	9	5	3
椿	椿保育所 (R6.4.1休所)	40	46	8	4	-	0	0	0	0
		40		8	4	0	0	0	0	0
橘	橘こどもセンター	90	11	50	46	39	31	19	11	5
		90		50	46	39	31	19	11	5
那賀川	今津こどもセンター	120	20	66	72	79	71	58	43	30
	平島こどもセンター	160	16	149	142	139	125	101	76	54
	(私立1施設)	95		72	86	95	86	69	52	37
		375		287	300	313	282	228	171	121
羽ノ浦	羽ノ浦くるみ保育所	98	48	107	78	75	58	53	48	38
	岩脇こどもセンター	150	7	136	138	134	104	94	86	68
	(私立4施設)	349		188	296	322	250	227	206	163
		597		431	512	531	412	374	340	269

各地区における人口推移（0歳から9歳推計）データを基に算出した入所児童数の推計は、令和5年3月に推計した入所児童者数と比較すると、少子化、人口減少の進行、さらにコロナ禍が及ぼした産み控えなどの影響から、全体的に教育・保育施設を利用する児童数は、減少すると予測しております。

地区別では、宝田地区の入所児童数が、減少しつつも基本方針で推計した児童数より増加しており、将来的に一定の保育ニーズが見込まれる地区であると予測しております。

一方、見能林地区、那賀川地区及び羽ノ浦地区は、基本方針で推計した入所児童数より、さらに子どもの数が減少すると予測されており、施設整備を計画する上では、社会情勢の変化に応じた子育てニーズを注視しながら検討する必要があると考えられます。

3 教育・保育施設別の利用者数の推移



令和元年から令和6年の各4月1日時点における教育・保育施設別の利用者数をみると、公立保育所は、全体的に利用児童数の減少が続いている一方で、私立保育所及び私立認定こども園は、年々増加傾向にあり、民間ならではの特色ある保育サービスの提供が、保護者のニーズと合致しているものと考えられます。

公立幼稚園は、令和元年に226人在籍していましたが、令和6年には120人となるなど、少子化と共働き世帯の増加等により各園の就園児童数が著しく減少してきており、発達段階に応じた望ましい集団活動等ができにくい園が生じています。

4 保育士の配置基準に対する入所児童の充足状況

児童数が配置基準の上限まで満たしていないクラス

*加配保育士の配置は、考慮しておりません。

R6.4.1 配置基準		(1:3)	(1:5)	(1:6)	(1:15)	(1:25)	(1:25)	
公立施設名	クラス年令	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計(人)
富岡	児童数	—	9	12	23	25	11	80
	担任数	—	2	2	2	1	1	8
寿	児童数	2	3	2	—	—	—	7
	担任数	1	1	—	—	—	—	2
宝田こどもセンター	児童数	—	10	12	14	16	22	74
	担任数	—	2	2	1	1	1	7
本庄	児童数	0	5	5	—	—	—	10
	担任数	0	1	1	—	—	—	2
長生	児童数	—	—	—	9	6	9	24
	担任数	—	—	—	1	1	1	3
大野	児童数	0	7	11	6	—	—	24
	担任数	0	2	2	1	—	—	5
明星	児童数	3	9	10	13	13	11	59
	担任数	1	2	2	1	1	1	8
中野島	児童数	2	5	5	5	7	0	24
	担任数	1	1	1	1	—	0	4
横見	児童数	0	5	5	2	—	—	12
	担任数	0	1	1	1	—	—	3
見能方	児童数	—	9	9	10	—	—	28
	担任数	—	2	2	1	—	—	5
津乃峰	児童数	—	5	3	4	9	4	25
	担任数	—	1	1	1	1	—	4
橘こどもセンター	児童数	2	5	9	12	5	6	39
	担任数	1	1	2	1	1	1	7
桑野	児童数	—	3	11	6	12	14	46
	担任数	—	1	2	1	1	1	6
新野こどもセンター	児童数	2	5	8	4	18	10	47
	担任数	1	1	2	1	1	1	7
福井	児童数	0	3	0	2	3	7	15
	担任数	0	1	—	1	—	1	3
今津こどもセンター	児童数	3	11	18	17	15	15	79
	担任数	1	3	3	2	1	1	11
平島こどもセンター	児童数	5	20	30	26	29	29	139
	担任数	2	4	5	2	2	2	17
羽ノ浦くるみ	児童数	—	10	10	14	17	24	75
	担任数	—	2	2	1	1	1	7
岩脇こどもセンター	児童数	6	20	20	30	28	30	134
	担任数	2	4	4	2	2	2	16

令和6年4月時点での、本市の公立保育所及び認定こども園において、保育士の配置基準に対して入所児童数の充足状況をみると、0歳児と1歳児クラスは、入所児童数が、保育士配置基準の上限まで達しているクラスが半数以上あり、結果的に公立保育所等では、年々増加している低年齢児への保育ニーズに対し、保育士不足によって、年度途中になると低年齢児の受入れが、できない状況となっています。

一方、2歳児から5歳児クラスは、富岡保育所、宝田こどもセンター及び岩脇こどもセンターなど一部を除いた各施設は、配置基準の上限数まで達していない状況で保育を実施しています。

本市の人口が、今後も右肩下がりに減少することが予想される中で、保育所等の入所児童数は、いずれの施設においても減少し、市内全体の保育需要は、年々減少が続くと予想されます。児童数は地域によって差がありますが、令和5年度末をもって休所した山口保育所や椿保育所と同様に、今後も一部の施設では適正な規模による集団保育が困難になることが予想されます。こうしたことは、児童の社会意識形成のための集団生活が乏しくなるほか、保育士の分散を招き、事業を運営する上で非効率の一因となっています。

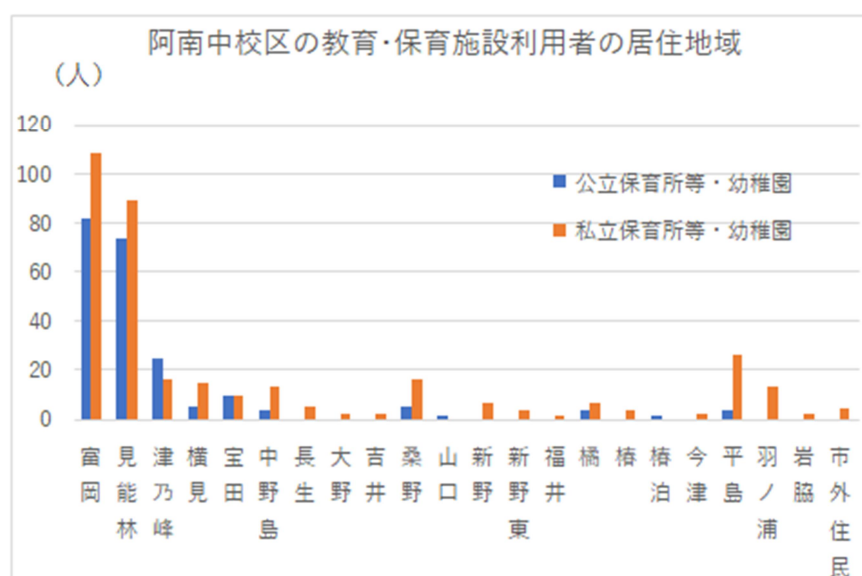
さらに、この状況は、加配保育士の配置を考慮しておらず、現実には、特別な配慮が必要な児童数が、年々増加傾向にあり、それぞれの児童に合わせた専門性の高い知識やきめ細やかな対応が必要となるため、余裕をもった配置を検討する必要があります。

5 教育・保育施設の利用者居住地域

本計画の策定にあたり「阿南市立小・中学校再編実施計画（R6.9策定）」の第1期（2024年～2033年）において再編の対象となる中学校区を基に、各校区ごとに設置する公立・私立の保育所及び幼稚園を利用している家庭の居住地域を調べました。

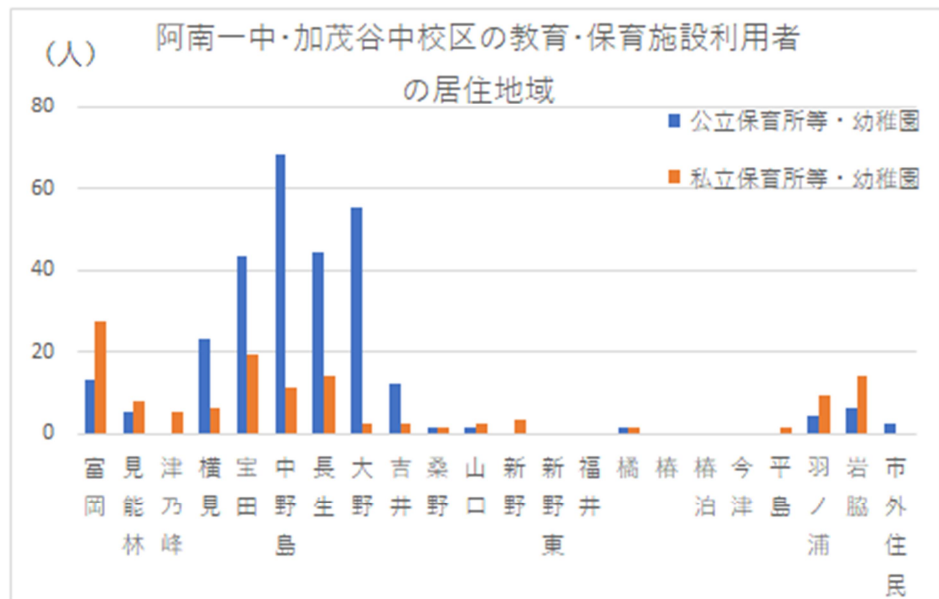
富岡保育所
富岡幼稚園
寿保育所
見能方保育所
見能林幼稚園
津乃峰保育所

あけぼの保育園
Sunny Side
阿南聖母幼稚園
神崎幼稚園
お山保育園
阿南ひまわり保育園



阿南保育園

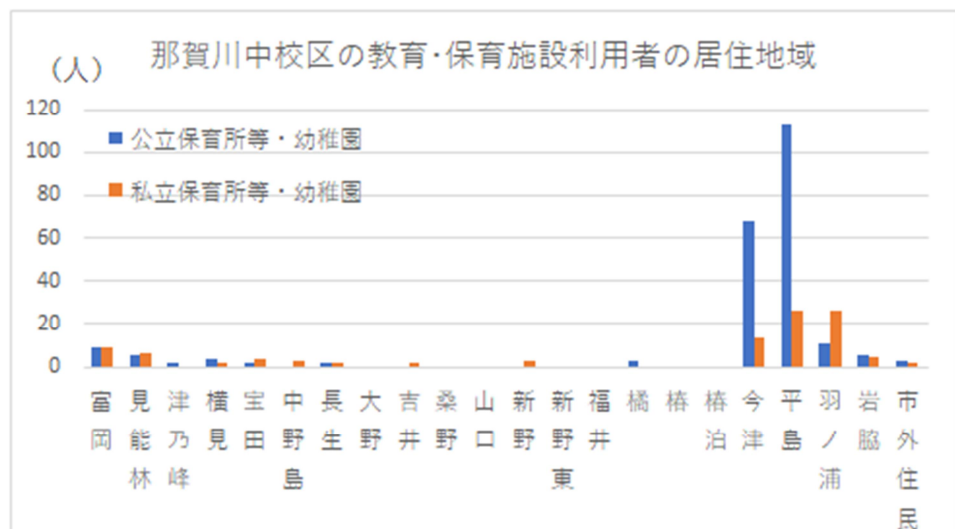
5 s t a r



桑野保育所
新野こどもセンター
福井保育所
橘こどもセンター



今津こどもセンター
平島こどもセンター
なかがわ保育園



羽ノ浦くるみ保育所
岩脇こどもセンター

S K Y 保育園
あざみ保育園
エクセレント羽ノ浦
認定こども園はのうら



本市の教育・保育施設は、利用する施設の地域指定はなく、保護者の就労等の都合により希望する施設を選択することが可能です。これを基本としつつ中学校区毎に設置する教育・保育施設と利用者の居住地域を調べたところ、全ての中学校区において、大多数の家庭が、公立の保育所及び幼稚園の立地場所と同じ中学校区に居住し、家から近い施設を選択していることが分かりました。このことから、公立の教育・保育施設は、一定数の利用者から、地域に密着した役割と機能が求められていると考えられます。

一方、阿南中校区と阿南一中・加茂谷中校区では、一部の私立保育所・幼稚園の利用者が、中学校区外から利用しており、これは、民間事業者が多様なサービスと特色ある保育を提供していることから、利用者から高い評価を得ていると考えられます。

第3章 施設整備実施計画の方向性と内容

1 計画の方向性

令和5年3月に策定した「阿南市教育・保育施設整備基本方針」の考え方に基づき、地域の実情を踏まえて認定こども園化への推進と、民間活力の導入を図ることと持続可能な財政運営を継続し、効果的・効率的な事業の推進に努め、保護者が安心して子どもをあずけられる保育環境の整備を行うこととします。

また、公立幼稚園・保育所等の整備により集約される人的・物的資源を効果的に活用し、教育・保育内容の充実や近い将来発生が想定される大規模災害時の防災の視点を踏まえた安全・安心な施設環境の確保を図り、教育・保育環境の質の向上に

努めます。

なお、「阿南市人口ビジョン（２０２４年策定版）」による推計人口を基礎として、２０４０年までの目標（戦略）人口の達成も見据えながら、私立の教育・保育施設を含めた保育ニーズの受け皿が確保できるよう検討していきます。

(1) 適正な集団規模の確保

子どもの発達段階に応じた適正な規模を確保し、同年齢、異年齢などによる多様な集団活動を営むことができる場を提供していくため、近隣自治体の状況も勘案し、１施設あたり１０人以下の少人数となった場合は、休園又は近隣の教育・保育施設との統合に向けて取り組んでいくこととします。

なお、０歳児から２歳児の乳児保育を実施している施設については、子ども一人ひとりに応じた関わりや特定の保育士が応答的に関わることを目的としているため、認定こども園として集約されるまでの期間において、１０人以下となった場合でも、継続する可能性があります。

参考

- ・ １学級の幼児数は、３５人以下を原則とする。（幼稚園設置基準）文部科学省令第３条より
- ・ １学級に４・５歳児は２１人以上３０人くらい

教員が望む １学級の幼児数 ４・５歳児は２０人以上 中でも５歳児は２５人以上

（幼児集団の形成過程と協同性の育ちに関する研究）出典：文部科学省ホームページ「社団法人全国幼児教育研究協会 研究概要」実地調査及び意識調査からの考察より

・【運動・遊び】

４歳児（６）身近な遊具や用具を使い、十分に体を動かして遊ぶことを楽しむ。

５歳児（７）様々な遊具や用具を使い、複雑な運動や集団遊びを通して体を動かすことを楽しむ。

【人間関係】

３歳児（７）身近な人と関わり、友達と遊ぶことを楽しむ。

４歳児（８）友達とのつながりを広げ、集団で活動することを楽しむ。

（９）異年齢の子どもに関心を持ち、関わりを広める。

５歳児（８）周りの人々に対する親しみを深め、集団の中で自己主張したり、また、人の立場を考えながら行動する。

（９）異年齢の子どもたちと遊ぶ楽しさを味わう。

（保育所保育指針における発達過程に応じた保育の内容【ねらい】/厚生労働省ホームページより）

(2) 認定こども園化の推進

本市の少子化の加速と教育・保育施設の既存の配置状況を踏まえ、乳幼児保育の需要の増加をはじめ多様化する就労形態の中で、保護者の様々な教育・保育ニーズに対応し適正な集団規模を確保した上で、効果的、効率的に対応する施設運営が求められています。

教育・保育施設の利用においては、制度上、保護者の就労状況により、就労していない場合は幼稚園（１号認定）に、就労している場合は保育所（２号、３号認定）にと、それぞれ利用できる施設が定められているため、入所・入園後の保護者の就労変化によっては、子どもの利用施設の変更を求められる状況があります。

こうしたことから、本市の教育・保育施設整備を計画的に進め、教育機能と保育機能を併せ持ち、保護者の就労等の有無による子どもへの影響が少ない認定こども園（１号、２号、３号認定）として整備を進めていきます。

(3) 民間活力の有効活用

増加、多様化する保育ニーズに的確に対応していくため、少子化及び厳しい財政状況下において、安定的・継続的に保育ニーズに沿った質の高い教育・保育を提供していきます。施設の集約を進めるにあたり基本方針では、民間活力を最大限に活用することとしており、公立の教育・保育施設を民営化することで、意思決定の迅速さ、多種多様な要望やサービスへの柔軟な対応等、民間独自での保育に沿ったサービス展開を目指します。

(4) 多様化するニーズへの対応

近年の急速な少子化の進行や家庭・地域を取り巻く環境の変化に伴い、多様化する保育ニーズに対応するため、認定こども園化を進めると共に、特別な配慮が必要な乳幼児への支援や医療的ケア児の受入れについて取り組んでいきます。

(5) 安全・安心な保育環境の確保

教育・保育施設の老朽化について、基本方針で現状が示されたように公立の教育・保育施設２４施設のうち１５施設が築４０年を経過しています。

多くの子どもたちが長時間生活する保育所等は、子どもたちにとって、家庭的で温かなくつろぎの場であると考えます。未来にはばたく子どもたちのもう一つの家として、防災や災害への対応も含め、安心して過ごせるための安全で衛生的な保育環境を迅速に整備していく必要があります。

2 計画期間

当施設整備実施計画の上位計画である「阿南市子ども・子育て支援事業計画」が5年を1期とし、次期計画を令和7年度から5年間としていることから、当施設整備実施計画についても同様に、令和7年度から令和11年度の5年間の計画期間とし、現行の財政状況や職員体制を考慮した上で、さらに10年延長した今後15年間を目途に整備を進めていきます。計画期間は、5年毎を前期・中期・後期とし、各期において、今後定期的に公表される阿南市人口ビジョンを基に、様々な社会環境の変化に影響を受けた実際の人口動向と保育ニーズに大きな乖離が生じないように計画の見直しを行う方針です。

3 エリア選定の考え方

阿南市人口ビジョン（2024年策定版）によると、人口変化率が、2020年を100として2060年が51.1となっており、推計人口が、69,470人から35,476人と半数近くまで減少する予測となっています。

このことから、「都市部エリア」及び「周辺部エリア」に類型化した上での整備方針や、地域の実情に応じた整備を進めるという基本方針の考え方を踏まえつつ、就学前の子どもたちの心身の発達のために、よりふさわしい集団規模の確保ができるよう環境整備を進め、市内14地区の地域の特色を生かした上で、市全体を一体的に考えた整備に向けての方針を検討するものとします。

エリア選定にあたり、当施設整備実施計画で予測した地区ごとの入所児童数（推計）から、児童数の減少などにより、将来的に集団での保育が困難となる場合を予め回避するようエリアを選びました。加えて、施設の老朽化等に伴う保育環境の改善が必要であること、また、本市の教育・保育施設を利用する大多数の家庭では、教育・保育施設の立地場所と同じ中学校区に居住し、自宅から近い施設を選択し利用していること、地域の実情に応じて施設を集約することなどを総合的に勘案する必要があります。

そこで、将来的には、本市の子どもたちが、市内のどの場所に居住していても、可能な限り「適正な規模の就学前教育・保育」を確保するため、公立の教育・保育施設は、令和6年9月に策定された「阿南市立小・中学校再編実施計画」の学校再編案第1期（2024年～2033年）において再編の対象となる中学校区のエリアに、概ね1～2か所の認定こども園に集約していくこととします。

4 エリア選定

施設整備基本方針

(令和5年3月)



地域の実情に応じた地区別

(人)



中学校区単位を基本とした
エリア分け

(公立)

エリア	地区名	施設名称	利用定員 (R6.4)	入所児童 (R6.4)
都市部エリア	富岡	富岡保育所	106	80
		富岡幼稚園	65	31
		寿保育所	20	7
		(私立4施設)	264	184
		計	455	302
	宝田	宝田こどもセンター	100	74
		(私立2施設)	129	125
		計	229	199
	中野島	明星保育所	84	59
		中野島保育所	40	24
		横見保育所	40	12
		横見幼稚園	20	8
		計	184	103
	見能林	見能方保育所	45	28
		見能林幼稚園	50	38
		津乃峰保育所	50	25
		(私立2施設)	150	137
		計	295	228
	那賀川	今津こどもセンター	120	79
		平島こどもセンター	160	139
		(私立1施設)	95	95
		計	375	313
	羽ノ浦	羽ノ浦くるみ保育所	98	75
		岩脇こどもセンター	150	134
		(私立4施設)	349	322
		計	597	531
周辺部エリア	長生	本庄保育所	20	10
		長生保育所	45	24
		計	65	34
	大野	大野保育所	45	24
		大野幼稚園	50	32
		計	95	56
	加茂谷	加茂谷幼稚園	20	11
		計	20	11
	桑野	桑野保育所	70	46
		山口保育所	40	0
		計	110	46
	新野	新野こどもセンター	79	47
		計	79	47
	福井	福井保育所	33	15
		計	33	15
	橘	橘こどもセンター	90	39
		計	90	39
	椿	椿保育所	40	0
		計	40	0

地区名	施設名称	利用定員 (R6.4)
富岡	富岡保育所	106
	富岡幼稚園	65
見能林	寿保育所	20
	見能方保育所	45
見能林	見能林幼稚園	50
	津乃峰保育所	50
私立	(富岡私立4施設)	264
	(見能林私立2施設)	150
計		750
宝田	宝田こどもセンター	100
中野島	明星保育所	84
	中野島保育所	40
	横見保育所	40
	横見幼稚園	20
長生	本庄保育所	20
	長生保育所	45
大野	大野保育所	45
	大野幼稚園	50
加茂谷	加茂谷幼稚園	20
(宝田私立2施設)		129
計		593
桑野	桑野保育所	70
新野	新野こどもセンター	79
福井	福井保育所	33
橘	橘こどもセンター	90
計		272
那賀川	今津こどもセンター	120
	平島こどもセンター	160
	(那賀川私立1施設)	95
計		375
羽ノ浦	羽ノ浦くるみ保育所	98
	岩脇こどもセンター	150
	(羽ノ浦私立4施設)	349
計		597

エリア	中学校区	施設名称	利用定員 (R6.4)	入所児童 (R6.4)
阿南中学校区	阿南中学校	富岡保育所	106	80
		富岡幼稚園	65	31
		寿保育所	20	7
		見能方保育所	45	28
		見能林幼稚園	50	38
		津乃峰保育所	50	25
		計	336	209

阿南一中・加茂谷中学校区	阿南一中・加茂谷中学校	宝田こどもセンター	100	74
		明星保育所	84	59
		中野島保育所	40	24
		横見保育所	40	12
		横見幼稚園	20	8
		本庄保育所	20	10
		長生保育所	45	24
		大野保育所	45	24
		大野幼稚園	50	32
		加茂谷幼稚園	20	11
	計	464	278	

中阿・新野中・校区井	井阿南二・新野中福	桑野保育所	70	46
		新野こどもセンター	79	47
		福井保育所	33	15
		橘こどもセンター	90	39
	計		272	147

那賀川中校区	中賀川	今津こどもセンター	120	79
		平島こどもセンター	160	139
	計		280	218

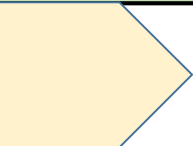
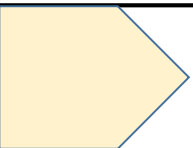
羽ノ浦中 校 区	羽ノ浦中	羽ノ浦くるみ保育所	98	75
		岩脇こどもセンター	150	134
		計	248	209

5 エリア別入所児童数（推計）

中学校区単位を基本としたエリア分け（公立） 入所児童数（推計）（単位：人）

エ リ ア	中 学 校 区	施 設 名 称	利 用 定 員 (R6. 4)	入 所 児 童 (R6. 4)	入 所 児 童 数（推 計）	
					2030年	2040年
阿 南 中 校 区	阿 南 中 学 校	富岡保育所	106	80	69	57
		富岡幼稚園	65	31	27	22
		寿保育所	20	7	6	5
		見能方保育所	45	28	23	19
		見能林幼稚園	50	38	32	27
		津乃峰保育所	50	25	20	17
	計		336	209	177	147
阿 南 一 中 ・ 加 茂 谷 中 校 区	阿 南 一 中 ・ 加 茂 谷 中 学 校	宝田こどもセンター	100	74	66	67
		明星保育所	84	59	47	35
		中野島保育所	40	24	19	14
		横見保育所	40	12	10	7
		横見幼稚園	20	8	6	5
		本庄保育所	20	10	8	6
		長生保育所	45	24	19	14
		大野保育所	45	24	17	9
		大野幼稚園	50	32	22	17
		加茂谷幼稚園	20	11	8	5
	計		464	278	222	179
中 阿 ・ 新 野 中 ・ 福 井 中 校 区	井 阿 ・ 南 二 野 ・ 中 福	桑野保育所	70	46	39	27
		新野こどもセンター	79	47	47	26
		福井保育所	33	15	15	9
		橘こどもセンター	90	39	31	19
	計		272	147	132	81
那 賀 中 校 区	那 賀 中 学 校	今津こどもセンター	120	79	71	58
		平島こどもセンター	160	139	125	101
	計		280	218	196	159
羽 ノ 浦 中 校 区	羽 ノ 浦 中 学 校	羽ノ浦くるみ保育所	98	75	58	53
		岩脇こどもセンター	150	134	104	94
	計		248	209	162	147

6 年次計画

エ リ ア	施設名称	施設経 過年数 (年)	入所 児童 R6.4 (人)	前期	見直し 期間 (阿南市人口ビ ジョンによる 人口推移を基 に整備計画を 検討する)	中期	見直し 期間 (阿南市人口ビ ジョンによる 人口推移を基 に整備計画を 検討する)	後期
				2025年～2029年 (R7～R11)		2030年～2034年 (R12～R16)		2035年～2039年 (R17～R21)
阿南中校区	富岡保育所	54	80	150人規模 認定こども園				150人規模 認定こども園
	富岡幼稚園	51	31					
	寿保育所	50	7					
	見能方保育所	36	28			閉所を含めた今後の在り方検討		
	見能林幼稚園	34	38			閉所を含めた今後の在り方検討		
	津乃峰保育所	36	25			閉所を含めた今後の在り方検討		
	(私立6施設)		321					
阿南一中・加茂谷中校区	宝田こどもセンター	43	74	100人規模 認定こども園				100人規模 認定こども園
	本庄保育所	50	10					
	長生保育所	45	24					
	明星保育所	48	59			100人規模 認定こども園		
	中野島保育所	44	24					
	横見保育所	51	12	少人数による休園統合の検討				
	横見幼稚園	45	8	少人数による休園統合の検討				100人規模 認定こども園
	大野保育所	42	24					
	大野幼稚園	49	32					
	加茂谷幼稚園	44	11	少人数による休園統合の検討		閉所を含めた今後の在り方検討		
	(私立2施設)		125	閉所を含めた今後の在り方検討				
中・阿南・新野中・校福井	桑野保育所	44	46		100人規模 認定こども園		100人規模 認定こども園	
	新野こどもセンター	23	47					
	福井保育所	33	15	少人数による休園統合の検討				
	橘こどもセンター	11	39					
那賀川中校区	今津こどもセンター	20	79				公私連携型 認定こども園	
	平島こどもセンター	16	139					
	(私立1施設)		95					
羽ノ浦中校区	羽ノ浦くるみ保育所	47	75				公私連携型 認定こども園	
	岩脇こどもセンター	7	134					
	(私立4施設)		322					

7 施設整備実施優先エリア

施設整備の優先順位については、基本方針に基づき、施設の老朽度合いのほか、将来の教育・保育ニーズの将来推計、整備用地確保の可能性を含めた立地条件、保護者はじめ関係者のコンセンサスなどを考慮し、総合的に判断して定めます。

なお、比較的築年数が新しい施設については、その状況に応じて必要な大規模改修を行い、施設の長寿命化を図ります。

第4章 エリア別整備実施計画

1 阿南中校区エリア

エリア	中学校区	施設名称	経過年数 (年)	利用定員 (R6. 4)	入所児童 (R6. 4)	入所児童数（推計）	
						2030年	2040年
阿南中校区	阿南中学校	富岡保育所	54	106	80	69	57
		富岡幼稚園	51	65	31	27	22
		寿保育所	50	20	7	6	5
		見能方保育所	36	45	28	23	19
		見能林幼稚園	34	50	38	32	27
		津乃峰保育所	36	50	25	20	17
	計			336	209	177	147

富岡保育所と富岡幼稚園は、阿南市内の公立幼稚園・保育所の中で最も古い施設となっており、早急に、子どもの安全性の確保や保育環境の向上を図る必要があります。

また、富岡幼稚園は、公立幼稚園の中で唯一、教育時間のあと預かり保育を実施していない幼稚園であり、夫婦共働きの世帯の増加や、保護者の就労形態の多様化が影響し、年々利用者が減少しております。

さらに、寿保育所は、0歳児から2歳児の乳児保育を実施しておりますが、少子化の影響もあり、近年10人以下の利用者数となっております。

見能方保育所、見能林幼稚園及び津乃峰保育所は、近年では大幅に入所児童数が減少している傾向となっております。

【整備実施計画】

- ・施設は、令和6年9月策定「阿南市立小・中学校再編実施計画」の学校再編案を基に集約する。
- ・子どもの安全・安心を考え、迅速な整備を進めていく。
- ・前期で、150人規模の認定こども園を設置し、富岡保育所、富岡幼稚園及び寿保育所は、閉所を含めて今後の在り方を検討する。
- ・中期で、見能方保育所、見能林幼稚園及び津乃峰保育所は、閉所を含めて今後の在り方を検討する。
- ・民間の幼稚園や保育施設が多数あることから、整備の集約に際しては、近隣の民間施設が教育・保育需要の受け皿となるよう誘導する。

2 阿南一中・加茂谷中校区エリア

エリア	中学校区	施設名称	経過年数 (年)	利用定員 (R6. 4)	入所児童 (R6. 4)	入所児童数（推計）	
						2030年	2040年
阿南一中・加茂谷中校区	阿南一中・加茂谷中学校	宝田こどもセンター	43	100	74	66	67
		明星保育所	48	84	59	47	35
		中野島保育所	44	40	24	19	14
		横見保育所	51	40	12	10	7
		横見幼稚園	45	20	8	6	5
		本庄保育所	50	20	10	8	6
		長生保育所	45	45	24	19	14
		大野保育所	42	45	24	17	9
		大野幼稚園	49	50	32	22	17
		加茂谷幼稚園	44	20	11	8	5
		計		464	278	222	179

宝田こどもセンターは、阿南市人口ビジョンにおいて、宝田町における人口変化指数がほぼ横ばいのため、保育ニーズも一定数見込めると予想されます。

また、このエリアには、大企業が位置し、出退勤には、約3,000人の従業員が、徳島市・小松島市方面から自家用車で通勤していることから、将来的に四国横断自動車道の阿南IC（仮称）が建設予定であるこの地域の保育ニーズは、阿南市外の利用者も見込めるのではないかと予想しています。

横見町は、富岡町、宝田町又は那賀川町と隣接する立地条件から、一定数の保護者は、ニーズに応じた地元以外の教育・保育施設を選択している傾向があり、横見保育所及び横見幼稚園の利用者は、年々減少傾向にあります。

本庄保育所と長生保育所は、それぞれ全体的な経年劣化により、大規模な修繕を実施することが難しく、長寿命化の視点での維持保全が十分にできないのが現状であるため、早急な保育環境の確保が必要です。

【整備実施計画】

- ・施設は、令和6年9月策定「阿南市立小・中学校再編実施計画」の学校再編案を基に集約する。
- ・前期で、100人規模の認定こども園を設置し、宝田こどもセンター、本庄保育所及び長生保育所は、閉所を含めて今後の在り方を検討する。
- ・横見保育所、横見幼稚園及び加茂谷幼稚園は、10人以下となった場合は、休園や近隣の教育・保育施設と統合を検討する。
- ・中期で、100人規模の認定こども園を設置し、明星保育所及び中野島保育所は、閉所を含めて今後の在り方を検討する。

3 阿南二中・福井中・新野中校区エリア

エリア	中学校区	施設名称	経過年数 (年)	利用定員 (R6. 4)	入所児童 (R6. 4)	入所児童数（推計）	
						2030年	2040年
中阿・新野中・福井中校区	井阿・南二・新野・中福	桑野保育所	44	70	46	39	27
		新野こどもセンター	23	79	47	47	26
		福井保育所	33	33	15	15	9
		橘こどもセンター	11	90	39	31	19
		計		272	147	132	81

本市南部は、全体的に人口減少地域であるため、集約した保育施設では、保育機能だけでなく、保護者が求める気軽に相談できる人や場など、子育て全体を支える機能を備えつつ、公立施設がセーフティネットとして機能する必要があると考えます。

桑野保育所は、突発的な不具合に対応するための修繕や安全対策のための計画的な修繕を行っているところですが、近年、建物の老朽化による緊急的な修繕の必要性が増しています。

新野こどもセンター及び福井保育所は、人口減少による少子化に伴い、利用者数も年々減少しています。

橘こどもセンターは、近年大幅に入所児童数が減少しておりますが、延長保育を実施しているため、県南方面へ勤務している保護者のニーズに対応しています。

【整備実施計画】

- ・施設は、令和6年9月策定「阿南市立小・中学校再編実施計画」の学校再編案を基に集約する。
- ・前期で、福井保育所は、児童数が10人以下となった場合は、休園又は近隣施設へ統合を検討する。
- ・中期で、桑野保育所、新野こどもセンター及び橘こどもセンターを集約し、発達段階に応じた適正な人数規模を確保する。
- ・市南部の地域子育て支援拠点事業を展開し、認定こども園や保育士等により地域支援を検討する。

4 那賀川中校区エリア

エリア	中学校区	施設名称	経過年数 (年)	利用定員 (R6. 4)	入所児童 (R6. 4)	入所児童数（推計）	
						2030年	2040年
那賀川中校区	那賀川中	今津こどもセンター	20	120	79	71	58
		平島こどもセンター	16	160	139	125	101
		計		280	218	196	159

那賀川中校区エリアは、人口減少により利用者数も減少しますが、比較的緩やかな減少傾向となっています。

【整備実施計画】

- ・施設は、令和6年9月策定「阿南市立小・中学校再編実施計画」の学校再編案を基に集約する。
- ・後期で、「公私連携幼保連携型認定こども園制度※」を利用し、公立、民間双方の優れた点の相乗効果による保育サービスの提供を行う。

※公私連携幼保連携型認定こども園制度とは

就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律第34条に規定する幼保連携型認定こども園の運営方式の一つであり、設置・運営主体は民間法人（学校法人又は社会福祉法人に限る。）で、市とあらかじめ「協定」を締結し、公私連携法人の指定を受け、市から必要な設備を貸付け、譲渡その他の協力など、設置の支援を受けつつ、人員配置や提供する教育・保育など運営への関与を受け、市との連携の下に適正な運営を行う施設です。

参考 就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律

第34条 市町村長（特別区の区長を含む。以下この条において同じ。）は、当該市町村における保育の実施に対する需要の状況等に照らし適当であると認めるときは、公私連携幼保連携型認定こども園（次項に規定する協定に基づき、当該市町村から必要な設備の貸付け、譲渡その他の協力を得て、当該市町村との連携の下に教育及び保育等を行う幼保連携型認定こども園をいう。以下この条において同じ。）の運営を継続的かつ安定的に行うことができる能力を有するものであると認められるもの（学校法人又は社会福祉法人に限る。）を、その申請により、公私連携幼保連携型認定こども園の設置及び運営を目的とする法人（以下この条において「公私連携法人」という。）として指定することができる。

5 羽ノ浦中校区エリア

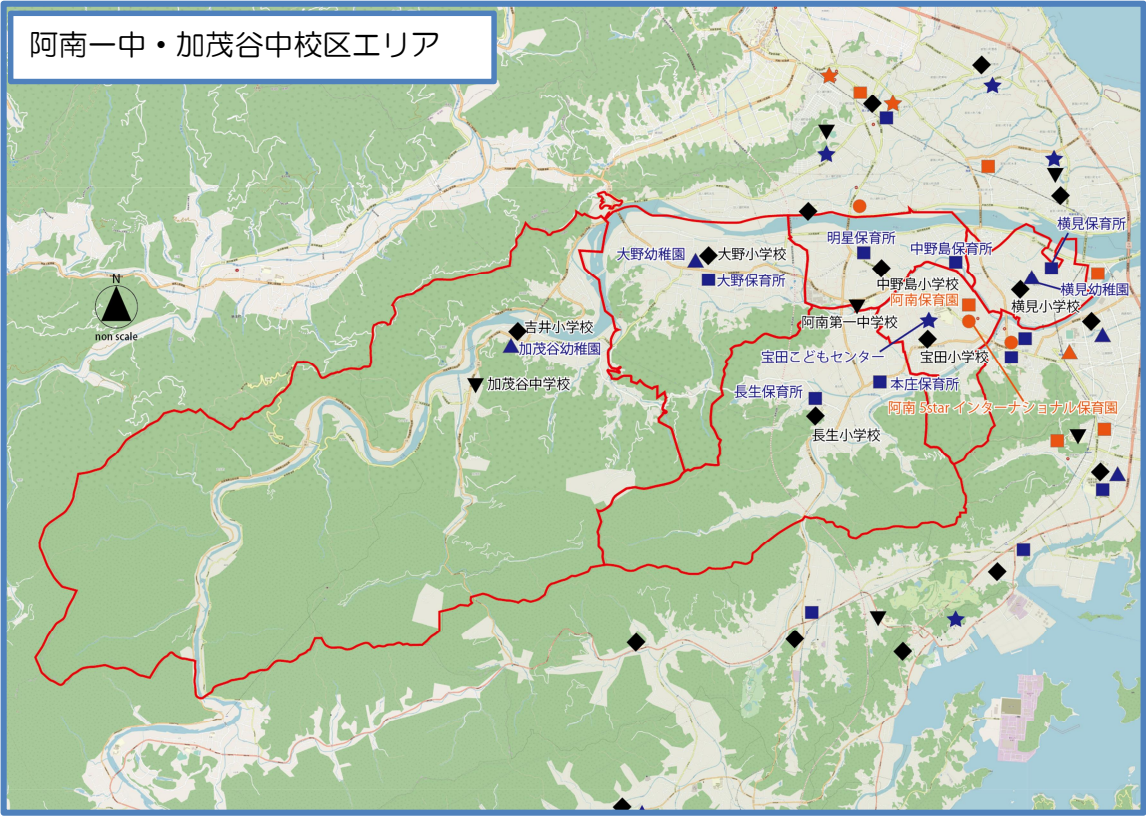
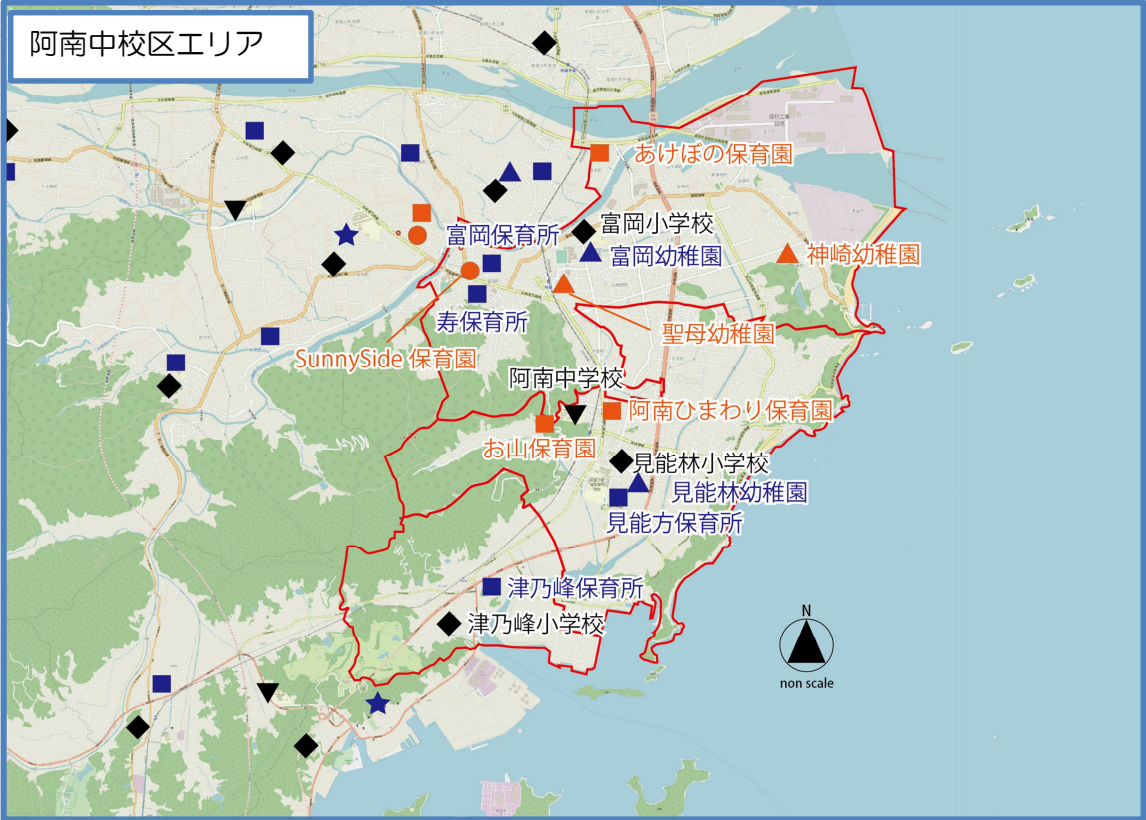
エリア	中学校区	施設名称	経過年数 (年)	利用定員 (R6. 4)	入所児童 (R6. 4)	入所児童数（推計）	
						2030年	2040年
羽ノ浦中校区	羽ノ浦中	羽ノ浦くるみ保育所	48	98	75	58	53
		岩脇こどもセンター	7	150	134	104	94
	計			248	209	162	147

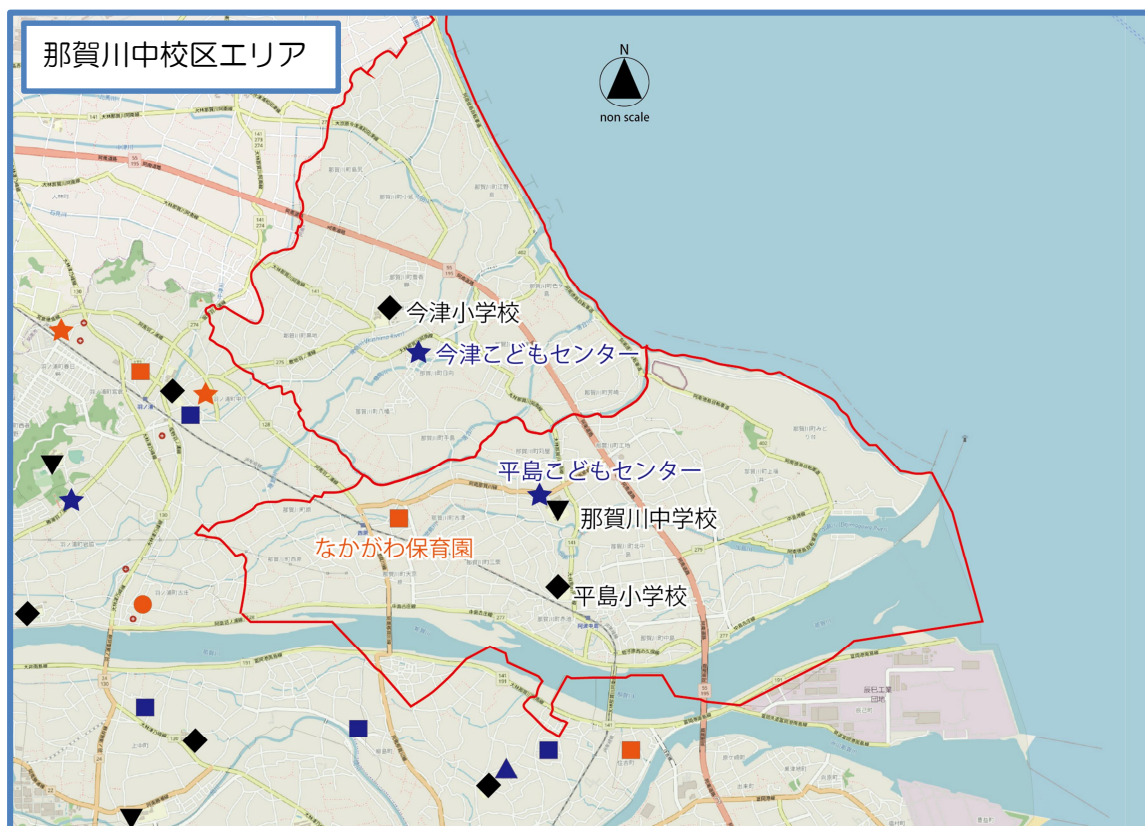
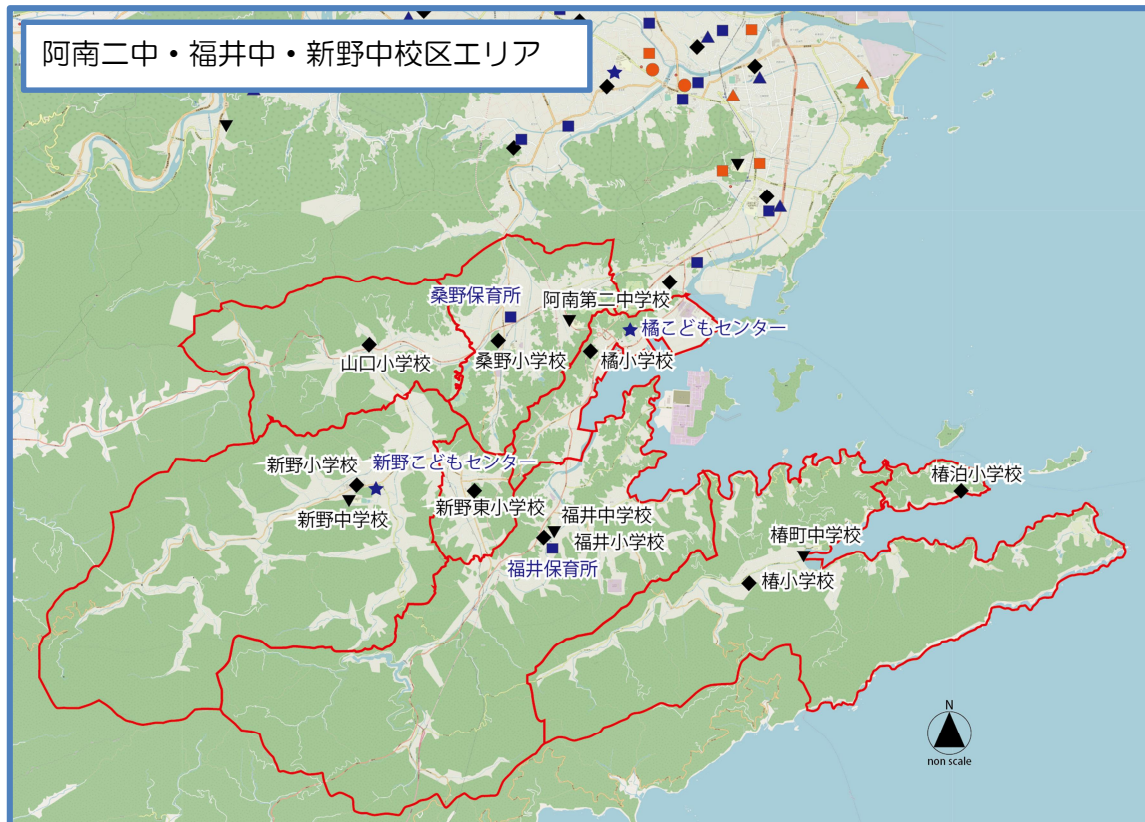
羽ノ浦中校区エリアは、人口減少により利用者数も減少しますが、比較的緩やかな減少傾向となっています。

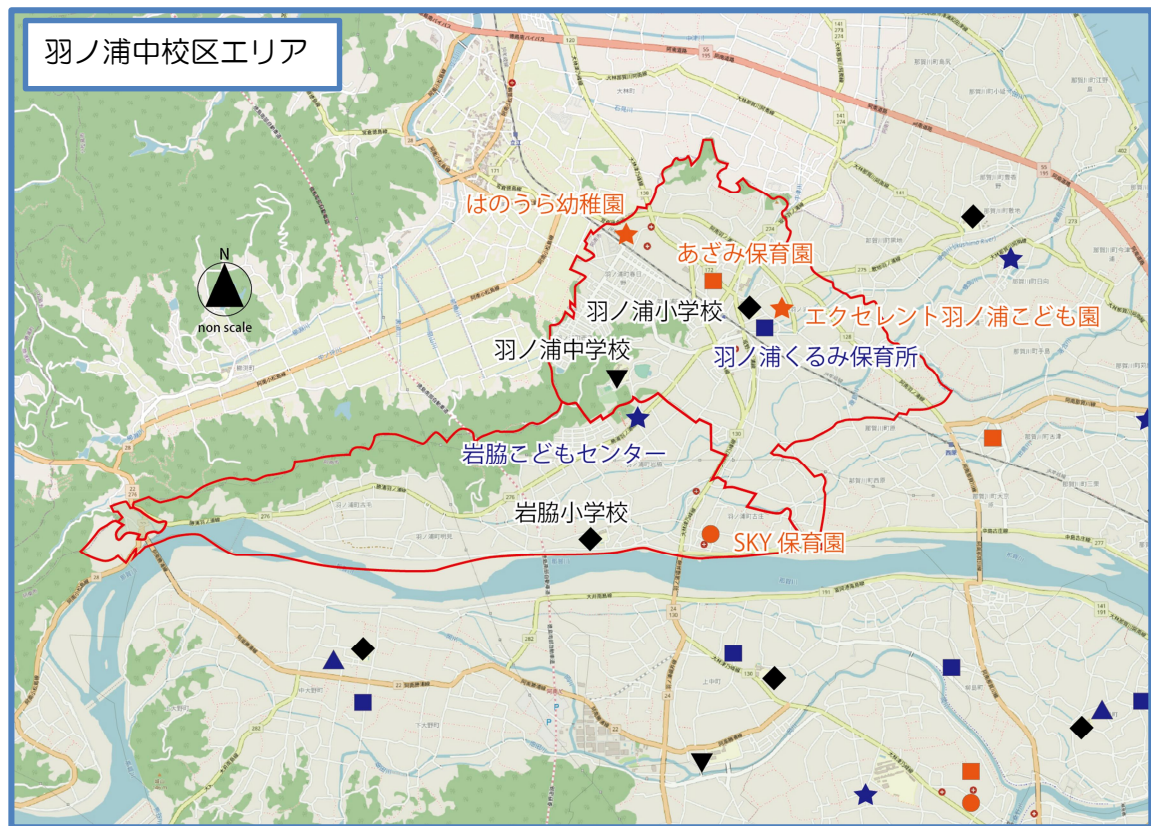
【整備実施計画】

- ・後期で、「公私連携幼保連携型認定こども園制度」を利用し、公立、民間双方の優れた点の相乗効果による保育サービスの提供を行う。

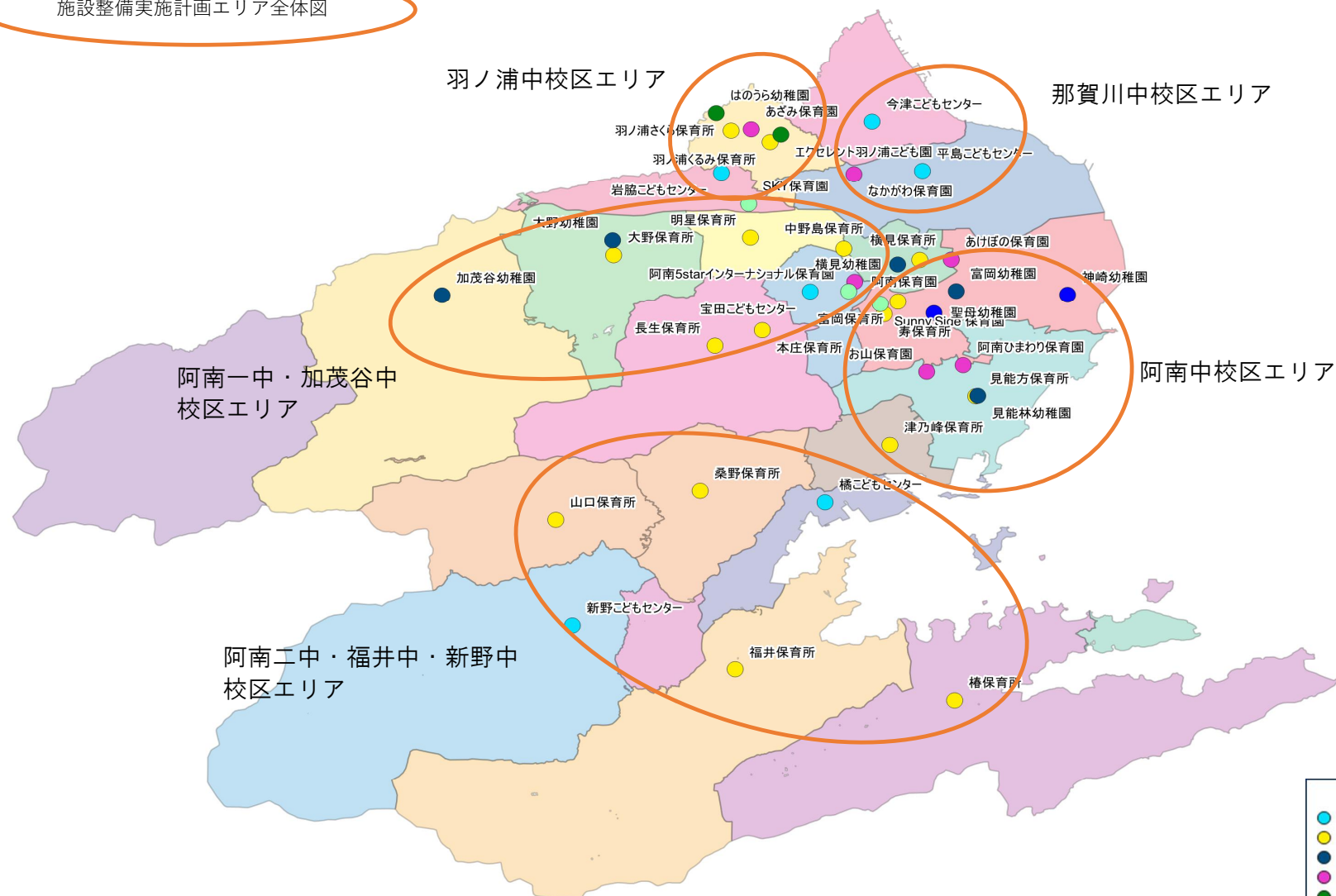
資料 中学校区エリア別 施設配置図







施設整備実施計画エリア全体図



凡例

- 公立認定こども園 [6]
- 公立保育園 [16]
- 公立幼稚園 [5]
- 私立保育園 [6]
- 私立認定こども園 [2]
- 私立小規模保育事業所 [3]
- 私立幼稚園 [2]
- 企業主導型保育園 [2]